



2015(平成27)年8月28日

日本イヌワシ研究会 副会長
(兼務) 保護対策委員会 委員長
横山隆一**「(仮称) 宮古岩泉風力発電事業環境影響評価準備書」に対する意見**

日本イヌワシ研究会は、1981年の発足以来、全国のイヌワシ観察者のネットワーク組織として、レッドリストで絶滅危惧IB類とされるイヌワシの全国規模の研究と保護に取り組んでいます。

当研究会では、宮古岩泉風力発電事業の計画地について、イヌワシならびにクマタカがハンティングエリアとして利用していることを確認しています。準備書においても両種の出現が、確認されています。

1) 両種への影響について

計画地に風車が建設されることにより、両種に対して、衝突死の発生、ならびに生息環境の改変による繁殖への悪影響が予測されます。

また、イヌワシについて、衝突確率を根拠として評価されていますが、過去に衝突確率が低いとして建設された、釜石広域ウィンドファームにおいて、2008年にイヌワシ成鳥の衝突が確認されており、その原因等については、未総括の状態です。このようなことから、衝突確率によって議論すること自体が、現時点で科学的根拠を持たないと考えられます。

本計画は、両種の生息を損なう可能性が高く、事業の中止もしくは大幅な計画変更が必要と考えます。

2) 有識者の意見について

有識者2名の意見として、クマタカは一般的に尾根部の利用が少ないと読める記述があります。しかしながら、現時点でそのような報告はなく、クマタカは尾根部もハンティングや移動のために利用することが多いのが事実です。これら2名の有識者は、鳥類の専門家として、知識が乏しいと考えられます。

意見を聴く有識者を猛禽類の生態に詳しい有識者に変更、または増員すべきであると考えます。

以上